

中央東

第 55 号
令和6年7月23日



ノミの話

支部長 吉田 亨
(上所小 昭六十三年度)

谷川俊太郎の絵本「これはのみのぴこ」をご存知でしょうか。図書室に行くと、低学年の子どもが「校長先生、見て見て、面白いよ。」と教えてくれました。この物語は「これはのみのぴこ」で始まり、「これはのみのぴこの すんでいるねこの ごえもん」「これはのみのぴこの すんでいるねこの ごえもん のしっぽ ふんずけた あきらくん」と、ページをめくるごとに出来事が積み重なっていく言葉遊びの絵本です。

ノミ(蚤)について調べてみると、ノミは主に犬や猫に寄生

・40 cmの高さを跳ねるノミを高さ10 cmの透明な容器に閉じ込めると、そのうち10 cmしか跳べなくなる。
・一度10 cmしか跳べなくなつたノミは、容器から出しても10 cmの高さしか跳ばない。

し、人も吸血する害虫です。跳躍力が非常に優れていて、高さ30〜40 cmを跳ねることが可能です。体長の約二百倍もの高さを跳ね上がるというのですから驚きです。

ところで、次のような「ノミの話」があります。

この「ノミの話」は我が新潟中央東支部にも言えることです。会員同士が高め合う中で、会員一人一人の能力(意欲と向上心)を伸ばす組織でありたいと願っています。

そのためには、対話(コミュニケーション)が不可欠です。会員相互の対話があれば、そこから人と人とのつながりが生まれるのだと思います。

私は、この「ノミの法則」を聞いたとき、妙に納得できる話だと思いました。

ノミを子どもに置き換えると、40 cmを跳ねる集団の中では、子ども一人一人の能力は競い合って伸びていくことでしょう。ところが、10 cmしか跳ねない集団では、「自分の力はこまでだ」と自分の限界を決めてしまふ傾向にあります。

◆40 cmを跳ねるノミの仲間と一緒にする。

では、再び40 cmを跳べるようにするには、どうすればよいでしょうか。

その答えは次のとおりです。

10 cmの跳躍で満足せずに、みんなが高め合つて40 cmを跳ね上がる新潟中央東支部をつくっていきましよう。

この「ノミの話」は我が新潟中央東支部にも言えることです。会員同士が高め合う中で、会員一人一人の能力(意欲と向上心)を伸ばす組織でありたいと願っています。

そのためには、対話(コミュニケーション)が不可欠です。会員相互の対話があれば、そこから人と人とのつながりが生まれるのだと思います。

さらには、会員同士の信頼が深まれば、自己のモチベーションも自ずと高まるでしょう。

・会つて話したい仲間がいる。
・互いに競い合う同僚がいる。
・目標とする人や憧れの先輩がいる。

このようなつながりをつくるには、私たち一人一人の心の持ちようが大切であり、人とつながる努力を忘れないようにしたいものです。会員一人一人の高い意識が強い組織をつくるのですから。

ときわ会は、創設一五〇周年の大きな節目を迎え、今年度は未来に向けた新たなスタートを切りました。今こそ、ときわ会の本旨に立ち返つて、「会員一人一人の資質・能力の向上」という共通の目標の下、着実な歩みを進めていくときです。

◇われらは つねに厳しくみずから鍛え、相互に練磨しあう者のつとめである。

さらには、会員同士の信頼が深まれば、自己のモチベーションも自ずと高まるでしょう。

・会つて話したい仲間がいる。
・互いに競い合う同僚がいる。
・目標とする人や憧れの先輩がいる。

このようなつながりをつくるには、私たち一人一人の心の持ちようが大切であり、人とつながる努力を忘れないようにしたいものです。会員一人一人の高い意識が強い組織をつくるのですから。

ときわ会は、創設一五〇周年の大きな節目を迎え、今年度は未来に向けた新たなスタートを切りました。今こそ、ときわ会の本旨に立ち返つて、「会員一人一人の資質・能力の向上」という共通の目標の下、着実な歩みを進めていくときです。

◇われらは つねに厳しくみずから鍛え、相互に練磨しあう者のつとめである。